

Kosyau

山形県長井市十日町1-9-2-1

「ASSEMBLIES」 in 長井

トークイベント:アートと町をつなぐヒント

2018.11.11 (Sun) 13:00-15:00

ASSEMBLIES

アッサンブリーズ

参加者が各々の関心やアイデアを持ち寄る不定期の集まり。参加するアーティストやキュレーターは、興味のあるトピックや作品、調査資料について、展示、パフォーマンス、対話など参加者自身がふさわしいと思う形式で自由にプレゼンテーションする。ASSEMBLIESでは、発想そのものを汎用的に開いていくための糸口として、対話や協働を通じた新しいファンクションを模索している。

Kosyau project

市民参加型
旧工場芸術的再開発計画

地元の人達の手を借りて、ワークショップ形式で旧工場をリノベーションするプロジェクト。手作りで改修する参加型の共同制作が、市民との双方向的な活動となる事を目指す。地域が抱える社会問題についての実験の場となるべく、アートやデザインによる市民の能動性を刺激する新しい試みを続けている。

企画: アメフラシ 作: まがた若者やびんシテ展事業 実行: 長井市戦略的芸術文化事業支援事業

参加者



後藤 桜子

1986年生まれ。2017年より活動の拠点を東京から水戸に移し、展覧会の企画・運営に携わる。主な活動に「Optional Art Activity: summer school」(良知曉との共同企画、2015)、「観光」(ジャウパ・チャンとの共同企画、2015)、「空想する都市学:空間の再分配フィールドワーク」(葉佳蓉との共同企画、2014)など。2017年より不定期イベントASSEMBLIESに参加。東北芸術工科大学非常勤講師。



吉田和貴

1973年生まれ。「すこしも考えていなかった」(art & river bank、東京、2009)、「どうして僕はこんなところに」(mujikobo、横浜、2013)「いくつかのラジオ。」(blan Class、横浜、2014)など展示・イベント多数。長野県塩尻市大門商店街にある「空き家プロジェクトnanoda」のコアメンバーになる等、一風変わったスペースへの関わりが深い。車を使ったドライブ+トークイベント「どうして僕はこんなところに」を主催。



佐々 暉

仙台を拠点に活動。「過去/未来」の出来事や記憶を、常に更新され続け得るものとして扱い、「今」をあらゆる可能性へと切り拓く試みを一貫しておこなう。主な個展に「あなたに話したいことがある」(GalleryTURNAROUND、仙台、2017)、「うたが聞こえてくる暮し(旅先と指先)」(ARTZONE、京都、2016)など。グループ展に「Omnilogue: Your Voice is Mine」(シンガポール国立大学美術館、2013)、「MOTアニュアル2012」(東京都現代美術館、2012)がある。



良知 暁

1980年生まれ。投票をキーワードとする広範なリサーチを基に、表象や社会的な不平等、制度をめぐる政治性などを考察する作品を、さまざまな形式で発表している。そのほか、写真と空間の関係性を入れ子構造を取り入れながら探求したインスタレーション、「歩行」や「質問」といったシンプルな行為による実践などを展開している。これまでにTARONASUやblanClassなどで作品を発表。2018年は『Quiet Dialogue: インビジブルな存在と私たち』(東京都美術館)に参加している。



村上 滋郎

1983年生まれ。主な展示「東京画II」(東京都美術館、2013)、TSCA Rough Consensus (アンテルーム京都、2013)など。2013年より生まれ育った山形県長井市で活動。伝統産業の復活プロジェクトや2015年に「アメフラシ」を結成し、廃工場を再生させるKosyauプロジェクトや伝統産業の復活プロジェクトなど、地方でのアートの役割・共存を模索。2017年に地元食材を活かしたクラフトビール会社を設立。